

# 道

2022・3・2

通信 No 1672



ジャ  
ノ  
メ  
エ  
リ  
カ

≪4月6日（水）に練習再開します≫

3月の練習は休止とします。（3/9、3/16、3/23、3/30）

4月から新たな気持ちで再会しましょう。

≪ロシアのウクライナ侵攻と合唱団活動に思う≫

〒 岡田紀久生

全く馬鹿げたことをプーチンは始めてしまいました。如何なる理由があるにしても許されない暴挙です。ヒットラーのポーランド侵攻や旧日本軍の満州国建国、盧溝橋事件等々と同列ではないでしょうか。世界中で反ロシア、反戦のデモが渦巻くのも当然の事でしょうね。

さて、私達「道」も創立以来50有余年ロシア民謡を歌い続けてきましたが今立ち止まり一考しなければならないのではと思います。私達青年時代。ロシア民謡は心の支えであり未来への希望に満ちたものでした。今もその思いは変わりません。ただ気に掛かることはソ連時代の歌もソ連を構成していた諸共和国の歌もロシア民謡として渾然一体曖昧模糊としていたところが多分にありそうという事です。

2003年の「共和国の歌」で「我が祖国我が愛」を歌った時、エストニア大使館よりやんわりとした表現でしたが抗議を受け初めて制圧された人々の苦しみを知らされました。ソ連の革命時代から戦中戦後といわゆるソヴィエト歌曲の名曲が沢山生まれ、わが国でも盛んに歌われてきたことも事実です。しかしながらそれらの中には時局賛美、体制賛美、愛国心を高揚する歌が沢山あることも事実。思い出す限りでも沢山あります。例えば「エルベ河」「ヴォルガからドン」「鉄路」「ロシア私のふるさと」等々。

次回の演奏曲の候補に「ロシア私のふるさと」が入っている事、大勢のリクエストがあることに驚いているのは私だけでしょうか。この歌こそ愛国心を高揚する自国讃美歌そのものではないでしょうか。確かにスケールが大きく綺麗なメロディとハーモニーで達成感はあると思いますがそれだけでよいのでしょうか。

歌と政治は別の物でしょうか。時の権力者は音楽を愛国心の高揚に民衆の統一に利用してきたことは皆様ご存知の事でしょう。今「ロシア、ロシア！」とは絶対歌えませんしこれからも同じです。今こそ「ウクライナ連帯と平和を」歌うべきです。選曲を変更する事も考えていきましょう。

ホームページやフェイスブックにウクライナ支援の項を立ち上げて頂けたらベターだと思います。ロシア民謡の魅力はこんなことでは失くなりませんが今こそプーチンの暴挙を糾弾し平和を希求していきましょう。